

題材名		鑄造ピューター文真 < 総時数10 >										
題材の目標		表現	1. 鑄造の仕組みを理解しながら、興味を持って製作に取り組むことができる。 2. 「用」と「美」のバランスを考え、レリーフの表現を工夫し、独自性があり使いやすい自分の気に入ったデザインができるようになる。 3. 各作業工程ひとつひとつを丁寧に、道具を安全に正しく使うことができるようになる。									
		鑑賞	4. 鑄造の技法に親しみ、日本の伝統的な美術作品にある鑄造作品に興味関心が持てるようになる。									
学習課程	時	ねらい	主な学習活動・内容	指導上の留意点	関	発	技	鑑	評価の場面	具体的評価規準(評価方法)	評価基準 (A 評定・B 評定)	
導入	1	・作業の進め方が分かり、アイデアスケッチが進められる。	・作業の進め方を聞き、アイデアスケッチを描く。  ・紙粘土型 ・紙型	・レリーフの凹凸の深さを意識させる。 ・左右反対になることに気をつけさせる。 ・大きさは5cm x 5cm x 2.5cm以内。 複雑な文様でなくても、単純で印象に残るデザインを考えさせる。 金属に合った表現をアドバイスする。					・スケッチの様子 ・できたスケッチ	・関：自分で考えながらスケッチが進められている。(観察)	A	自分の力だけでスケッチを進めることができています。
	B										資料集や教科書を参照してスケッチができています。	
原型制作	3	・自分のアイデアに沿った原型、鑄型の制作ができる。	・原型、鑄型を制作する。	・紙型の場合、接着面に隙間ができないよう十分注意させる。 目の前で実演しながら、丁寧に指導する。 自分の力でできるだけ行わせ、達成感を味わわせる。					・作業の様子 ・ワークシート	・技：原型や鑄型が抜型になっており、丁寧に仕上げることができる。(観察・ワークシート)	A	原型や鑄型がきちんと抜型になっており、イメージ通り細部まで丁寧に作られている。
	4										B	原型や鑄型が、イメージ通りにできている。
	5											
	6											
	7	安全性の面から、鑄込みは教師が行う。							・作品	・発：自分のデザインに合った仕上げ方ができている。(作品)	A	自分の作品に合った研磨を心がけ、作品の中心が分かりやすくできている。
											B	自分の作品に合った研磨ができている。
研磨	8	・自分の納得がいくまで研磨し、満足いく作品ができる。	・鑄込みが終わった作品を仕上げる。	・耐水ペーパー1枚1枚を丁寧にかけさせる。 ・マットな仕上げが合うデザインには、それを勧める。						・技：耐水ペーパーの使い方が分かり、丁寧に研磨することができている。(作品)	A	耐水ペーパーの使い方に慣れ、自分が思った通りの研磨ができ、完成度の高い作品ができている。
	9										B	耐水ペーパーの使い方が分かり、丁寧に研磨し、作品が完成している。
まとめ	10	・自分の制作を振り返り、鑄造作品に対する興味関心が持てるようになる。	・自己評価を行い、教師の話聞き、感想を記入する。	・奈良の大仏などが同じ技法で作られていることを伝える。 ・正しい自己評価ができるように指示する。 ・現在の鑄造の世界についても紹介する。					・ワークシート	・鑑：鑄造を通して日本の伝統的な工芸技法に興味関心を持つことができる。(ワークシート)	A	鑄造が伝統的な工芸であることを理解し、興味関心を持って接することができるようになってきている。
											B	鑄造が、日本の工芸で様々な使われ方をしていることに気づいている。